



# 香川の野鳥ファイル No. 3 カワアイサ

今回は、2003年2月、満濃池で観察されたカワアイサをご紹介します。

## 満濃池のカワアイサ

城戸 崇雄

2003年2月9日 夕方、子供たちを満濃池森林公園で遊ばせた後、帰り途中、子供たちがお茶を飲みたいというので、満濃町満濃池の堰堤の上に車を止めました。満濃池の堰堤の上からのカモの観察は逆光になるので、いつもはあまり観察していません。

お茶が冷めるのを待ちながら池を眺めていると、ブラックバスを釣る人たちの前でカムリカイツブリが潜っては小魚を捕食しています。遠くにはマガモ、キンクロハジロなどが多く泳いでいます。その中に白く目立つ点が二つあります。確認のため双眼鏡で覗きましたが、よくわかりません。周りのカモよりは大きそうです。

フィールドスコープを取り出し、覗いて、びっくり、カワアイサ(2羽)のようです。頭部の形状からウミアイサではないことがわかります。

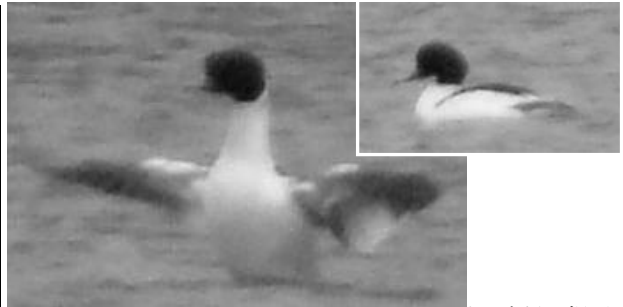
これは岩田さんに報告せにゃいかんわいと思い、撮影の準備をします。満濃池は水位が低く、堤防の上流側には平らな台地が露出しており、その先端まで行き撮影を開始しました。

カワアイサは初め西岸よりにいましたが、徐々に二羽とも池の中央に移動を始めます。池の中央まで行くと、今度は潜水しながら西岸に戻り始めます。西岸に近くなったところで、羽をばたつかせたので、そのタイミングで撮影したのが下の写真です。いかんせん遠いのでピントの山もはっきりせず、あまり納得の行かない写真となりました。

鳥の話ではありませんが、露出した平らな台地には、逃げ遅れたとみられる1cm前後の無数の巻貝が落ちていました。家に帰ると子供のポケットにはその巻貝たちがたくさん入っていました。

## ★記 録

種 名	カワアイサ
観 察 地	満濃町神野 満濃池
羽 数、性・齢	2羽(♂2羽)
観 察 年 月 日	2003年2月9日
観 察 者	城戸 崇雄 氏
(初認日・初認者)	2003.2.9 2羽 (城戸氏)
(終認日・終認者)	2003.2.15 1羽 (城戸氏) 以後は未確認。



2003. 2. 9 城戸崇雄氏撮影

## ★角 評 説 (事務局より)

カワアイサは3亜種が認められており、日本には主に中央アジア周辺で繁殖する亜種カワアイサ *M.m.comatus* が越冬し、稀にヨーロッパの亜種オオカワアイサ *M.m.merganser* が渡来する(※1)。亜種カワアイサの方が小型で嘴が細く短いと言われる(※2)が、野外での識別点になるか明記した文献は、確認した範囲ではなかった。なお亜種カワアイサには翼の白色部に黒い横線がないとする記述(※3)があるが、写真や他のアジア地域の図鑑を見る限りでは、短い黒線が出る場合もあり、識別点にはならないと思われる。

四国では非常に稀な冬鳥で、文献上は愛媛県重信川河口(73.1.12)、同黒部ダム(81.1.1)の記録しかない(※4, 5)。香川県では97年10~11月に高松市小田池で♀1羽が渡来したと話題になったが、ウミアイサとの見解もあり(※6)、確実な識別に至っていない。その後02年1月6~11日まで塩江町内場池で♂1羽が観察・撮影されており、確実な記録はこの1例だけである(※7)。今回の記録は、香川県では2例目と考えられる。

※1 「日本鳥類目録第6版」、日本鳥学会、2000 / 2 「原色鳥類検索図鑑」、宇田川竜男、1982  
 3 「日本の鳥550 水辺の鳥」、桐原政志、2000 / 4 「四国の野鳥誌」、石原保、1982  
 5 「愛媛の野鳥観察ハンドブック はばたき」、日本野鳥の会愛媛県支部、1992  
 6 「かいつぶり」、日本野鳥の会香川県支部、1997.12 / 7 「かいつぶり」、同、2002.4